

グローバル人材の育成支援に関する 経団連の取り組み

デジタル技術が進展し、場所と時間に捉われない働き方が定着しつつある。ビジネスがますますグローバル化する中、価値観や社会的背景の異なる人々と協働しながら、新たな価値を生み出せる「グローバル人材」への期待が高まっている。また、SDGsなどのグローバル課題の解決に対しても、そのような人材の活躍の場は広がっている。

経団連では、グローバル人材の育成に向けた政策提言(Policies)を行うとともに、関係組織と協力しながら長年にわたって、人材育成の支援に具体的に取り組んできた(Action)。その取り組みは、対象となる年代やアプローチの方法に応じて、図表1の通り多岐にわたる。ここでは、それらの概要を紹介したい。

UWC (United World Colleges) への派遣奨学事業

UWCは、世界各国から選抜された高校生を受け入れ、国際感覚豊かな人材を養成する、

国際的な民間教育機関である。10代後半という多感な時期に、世界各国から集まった生徒と寝食を共にする中で国際感覚を醸成するという、ユニークな教育モデルを掲げている。本部は英国にあり、2021年現在、日本を含む世界18カ国・地域にカレッジ(高校)が存在する。

日本から派遣された生徒は、高校2年生の夏から2年間、カレッジで勉学や課外活動等にいそしむ。カレッジの教育は国際バカロレア(IB)のディプロマ課程に則って行われ(本誌39ページ参照)、卒業時にIBディプロマを取得した生徒は、世界の多くの大学の受験資格を得ることができる。

経団連は、このようなUWCのプロジェクトや理念に賛同し、1972年、世界各国におけるUWC活動の窓口を担う「国内委員会(National Committees)」の1つとして、「UWC日本協会」を設立した。現在は、「ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本

協会」の名称で、UWCの普及・啓発や、世界各地のカレッジに派遣する生徒への奨学金の募金と支給、さらには各カレッジに送り出す生徒の選考と派遣を行っている(図表2)。


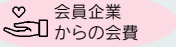
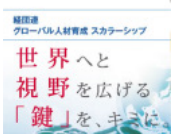
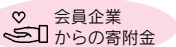
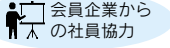
UWC日本協会が支給する奨学金は、趣旨に賛同する経団連会員企業(2021年10月現在56社)の年会費や卒業生等からの寄付で支えられている。これまでに671名を派遣してきた。

経団連国際教育交流財団による 奨学金の支給

経団連国際教育交流財団は、グローバルに活躍することを志向する大学生・大学院生の海外留学を支援するため、現在、3つの奨学金制度(図表3)を設けている。

同財団は、経団連第2代会長を務めた石坂泰三氏の業績を顕彰し、若い人々による国際交流が重要と考えていた同氏の意を酌み、1976年に設立された。海外の大学や大学院

図表1 グローバル人材育成支援に関する経団連・関連組織の取り組みの概要

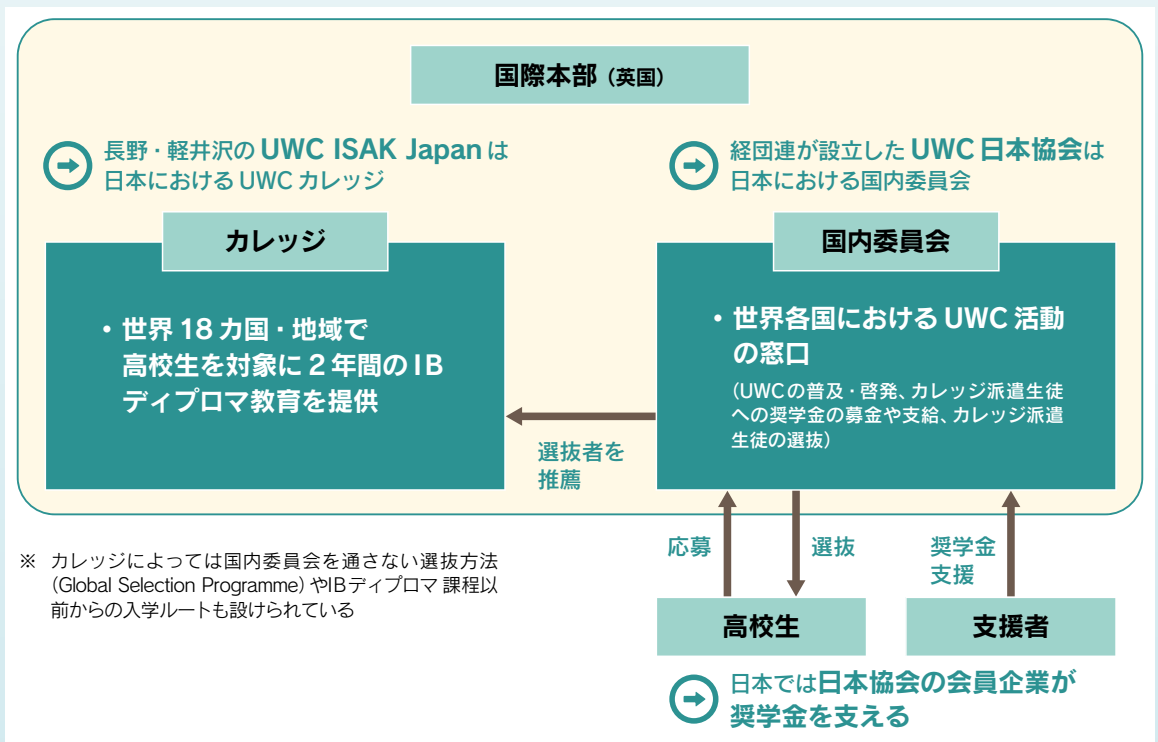
	資金支援	企業人派遣	その他
高校生向け	(1) United World Colleges (UWC) への派遣奨学事業   会員企業からの会費		
大学生・大学院生向け	(2) 経団連国際教育交流財団による奨学金の支給 ① 経団連グローバル人材育成スカラーシップ（経団連グローバル奨学金）   会員企業からの寄附金 ② 日本人大学院生奨学金（アカデミアでの活躍を志向する学生対象） ③ 産業リーダー人材育成奨学金（企業での活躍を志向する学生対象） ※ 皇太子明仁親王奨学金（注）（日本とハワイの大学院生を相互派遣）	(3) 経団連グローバル人材育成モデル・カリキュラム（企業人による講義）  会員企業からの社員協力 ・上智大学との連携授業 ・東京工業大学PLP発展研修プログラム	(4) 経団連グローバルキャリア・ミーティング（合同就職説明会）

（注）皇太子明仁親王殿下（現在のの上皇陛下）のご成婚とハワイご訪問を記念して、1960（昭和35）年、

経団連事務局作成

ハワイ在住の日系人やホノルル商工会議所、我が国経済界の協力により創設

図表2 UWC (United World Colleges) について



経団連事務局作成

図表3 奨学金制度の概要

(各奨学金とも応募者の在学期に指定あり。その他詳細については経団連国際教育交流財団ホームページの募集要項を参照)

① 経団連グローバル人材育成スカラーシップ (経団連グローバル奨学金、経団連と経団連国際教育交流財団の共同事業)

- 事業開始: 2012年
- 対象: 日本人または日本の永住権を持つ**大学生、大学院生(修士課程)の留学**
※将来、**日本企業に就職**し、国際的な事業活動において**グローバルに活躍**する意志を持つ学生
- 支給金額: **200万円**
- 留学期間: 1年未満
- 支給人数: **最大20名**
- 奨学金以外の支援: SNSを活用した留学準備支援や留学中の情報提供、留学前の「課題共有会」開催、帰国後の「経団連グローバルキャリア・ミーティング」への招待、等

② 日本人大学院生奨学金 (経団連国際教育交流財団の事業)

- 事業開始: 1976年
- 対象: **日本人大学院生の留学**
※広く社会に貢献し、将来、アカデミアの世界で**研究者として活躍**する意志を持つ学生
※応募時に日本の大学院に在籍
- 支給金額: **350万円/年**
- 支給期間: 最大2年
- 支給人数: **最大2名** (うち1名は留学先を英国に限る)

③ 産業リーダー人材育成奨学金 (経団連国際教育交流財団の事業)

- 事業開始: 2013年
- 対象: **日本人大学院生の留学**
※大学院修了後、**日本企業において活躍し、日本経済の発展に貢献**する意志を持つ学生
※応募時に日本の大学の最終学年または修士課程1、2年に在籍
- 支給金額: **450万円/年**
- 支給期間: 最大2年
- 支給人数: **1名**

経団連国際教育交流財団ホームページから経団連事務局作成

に留学する日本人学生に奨学金を支給することを通じて、我が国の学術研究や世界経済の発展に寄与するとともに、国際社会に貢献する人材の育成を目的とする。

(1) 経団連グローバル人材育成スカラーシップ(経団連グローバル奨学金)

将来、日本企業に就職し、国際的な事業活動においてグローバルに活躍する意志を持つ大学生や大学院生(修士課程)の留学に際し支給する。奨学生の多くが、帰国後、日本企業に就職している。

本奨学金は、同財団からの拠出に加え、趣旨に賛同する経団連会員企業からの寄付金を原資としている。また、奨学生の選考に際しては、ご寄付をいただいた

た企業の協力も得ている。

(2) 日本人大学院生奨学金

広く社会に貢献し、将来アカデミアの世界で研究者として活躍する意志を持つ日本人大学院生の留学に際し支給する。

(3) 産業リーダー人材育成奨学金

大学院修了後、日本企業で活躍し、日本経済の発展に貢献する意志を持つ大学院生の留学に際し支給する。

経団連グローバル人材育成モデル・カリキュラム

経済の高付加価値化や事業活動のグローバル化に伴い、人材に求められる素質や能力は年々高まっている。経団連は「グローバル人材の育成に向けた提言」(2011年6月)において、多様な文化や社会的背景を持つ人々と協力し、国際的なビジネスの現場で活躍できる「グローバル人材」の育成が重要であることを指摘した。また、経済界が求める人材像と大学教育で育成される人材像とを近づけるため、経済界としても大学への教育支援を拡充することを謳った。具体的には、国際化に積極的な大学との間で、グローバル人材育成に向けたプログラムを実施することを打ち出した。

その後、経団連では、同提言を踏まえて2012年度から現在に至るまで、上智大学と



経団連グローバルキャリア・ミーティングの様相(2019年度)

の間で毎年度「経団連グローバル人材育成モデル・カリキュラム」(本誌30〜31ページ参照)を開講している。

さらに、同様のプログラムを他大学、とりわけ理工系大学にも展開することが課題となっていたところ、東京工業大学から依頼があり、博士後期課程に在籍する大学院生のキャリア教育の一環として、2014年度に「東京工業大学プロダクティブリーダー教育院

(PLP)発展研修プログラム」を開講し、現在に至っている。

いずれのプログラムも、受講人数は20〜30名であり、PBL(Project Based Learning)型の教育プログラムを実施している。同プログラムの中では、企業人講師がグローバルなビジネス環境で直面する課題を学生に提示し、その解決に向けて学生が調査やグループ討議を行い、解決策を発表することになっている。

経団連グローバルキャリア・ミーティング

経団連では、留学後に帰国した大学4年生・修士2年生や、日本の大学への外国人の正規留学生を対象に、合同就職説明会・面接会を2012年から独自に実施している(2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)。経団連グローバル人材育成スカラーシップ奨学生の該当者にも参加を呼び掛けている(写真)。

一般的に日本企業による新卒者の採用選考スケジュールは、留学期間と合わないため、留学後の就職活動が難しくなるとされており、それが留学を躊躇する大きな理由の一つになっている。本イベントは、学生が留学を終えて帰国する夏に開催しており、学生の不安を軽減するとともに、グローバル人材の採用に積極的な企業と学生とを結び付ける機会を提

供している。

ご協力へのお礼と支援のお願い

以上の活動は、寄付や社員派遣など、会員企業からの有形無形の協力で成り立っている。この場を借りて、改めて厚く御礼申し上げます。持続可能な社会の実現に向け、グローバル人材の育成をより一層推進していくためには、会員企業の皆様からのさらなる支援が欠かせない。企業あるいは個人の皆様に活動の趣旨にご賛同いただき、ご協力を賜ることができれば幸いです。

【SDGs本部】

各事業の詳細は下記参照

UWC 日本協会



経団連国際教育交流財団



経団連グローバル人材育成モデル・カリキュラム関連

上智大学
「グローバル・
ビジネスの
現状と課題」



東京工業大学
「プロダクティブリーダ
教育院(PLP)発展研修
プログラム」



上智大学
「グローバル・
ビジネスの
フロンティア」



経団連
グローバルキャリア・
ミーティング

